

一月十五日震災関係

1968

（昭和五年三月九日第二號（臨時））

# 國民新聞 第二號外

大正十三年  
一月十五日

發行所 東京市京橋區日吉町 國民新聞社  
印刷人 伊藤 永止

## 今朝再び關東地方

### 一帯に大地震起る

山の手方面の損害莫大

電信電話交通杜絶す

今十五日午前五時五十三分

關東地方一帯に

巨り大地震あり東京市中の焼跡は大部分バラック建  
ての爲め被害は尠かりしも焼残れる山の手方面及び  
近郊の被害は莫大なるものあり家屋の倒壊其の數を  
知らず死傷者又多數ある見込みなるも電信電話交通  
機關等不通の爲め詳細判明せず(午前六時二十分)

### 全市暗黒

此の大地震の爲め電燈は消え全市

一時暗黒となつたが午前七時應急修理成り點燈した

### 列車脱線

今朝五時五十分上野驛者の青森發七〇六列車

津島溪畔を通過した際大地震の爲め脱線し乗客は何れも徒歩で上  
へ回つたが負傷者尠からぬ模様なり(午前八時)

1969

供覽

軍務局

人事局

經理局

軍需局

機政本部

教育局

築局

關田

別

大正十三年一月十五日午前八時一六分  
海軍大臣  
第一艦隊司令長官  
藤田

海軍大臣

藤田

今朝五時半 當地方稍強震アリタルモ  
入渠中ノ艦船皆無事

1970

供覽

大正十三年一月十五日午前八時一五〇分  
横須賀鎮守府司令長官

海軍大臣

藤田

軍務局

人事局

經理局

軍需局

機關局

醫務局

教育局

建築局

別今朝五時五十分頃當地強震アリ  
部下各部署格別、損害ナキ見込ナルモ  
取調中、入渠中、長門、五十鈴其他  
異状ナシ

海軍本報

1971

皇室

建築局

教育局

人事局

軍務局

信覽



今朝、震災、輕微  
殿下御無事ニ居ラセラル、  
人事局 輕傷三

海軍大臣

大正十三年一月十五日午前

海軍水雷學校長

二〇一五 禮須加糸  
二一五二 海軍若着



1972

供覽

福

藤田

大正十三年一月十五日午後二時。横須賀海軍工廠。洪

区内大

横須賀鎮守府長官

陸軍大臣 海軍次官

藤田

軍務局

北條行機 本日九時頃大島伊豆東岸

人事局

視察 横須賀逗子鎌倉方面鉄道等

經理局

軍需局

視察 結果異常ナシ

機關局

午後一時島風 本府参謀一名、内務大臣

法務局

特派 神奈川縣敬書視一名、乗七沼津

醫務局

急行 セシタリ

教育局

建築局

艦政本部

海軍會

1973

供覽

軍務局

人事局

支那

政本部

宮内大臣

海軍無電中継

大正十三年一月十五日

宛發 靜岡縣知事 宮内大臣

今朝五時五十分近來穉ナル強震アリ其

程度ハ電燈燃キタシク動揺セルモ時計ノ振りハ

止マル程度ニ至ラス机上ノ物品ニ墜落ノ程度ニ

至ラス

西陛下ニ何等御異状アラセラス屋外ニ

御避難ニ遊ハサレス

右電信電話等不通ニ付靜岡縣庁ヲ通シ

何等カノ方法ヲ報告スル様依頼セリ

尚西陛下ヨリ攝政殿下ノ御機嫌ヲ伺ヒ

御機嫌ヲ伺ヒ

1974

侍従長白平后宿之夫高等官一同ヨリ謹  
極政殿下ノ御機嫌ヲ伺ヒ奉ル  
十五日午前六時三十分沼津御用邸ニ荒  
宮内書記官ヨリ牧野宮内大臣閣下

格録ハ  
有電案ナク御電シム

1975





電

軍務局

人事局

經理局

軍需局

機關局

法務局

醫務局

局

建築局

郵政本部

大正十三年一月十五日午後一〇時五分  
海軍省副官  
佐世保鎮守府參謀長  
海軍省副官  
藤田

宮内大臣  
陸軍大臣  
海軍省副官

陸軍大臣  
海軍省副官

陸軍大臣  
海軍省副官

陸軍大臣  
海軍省副官

陸軍大臣  
海軍省副官

陸軍大臣  
海軍省副官

陸軍大臣  
海軍省副官

1976

静岡地方ハ強震ヲ感シ壁ノ落キタル所アリ  
関東地方ノ被害ハ詳細不明ナリ  
三、大阪中央電信局ヨリ佐世保郵便局へ通信。  
沼津強震ナリシニ時計ノ振子止マラス  
御用印御無事ノ趣ナリ

1977





一般ノ状況ハ平穩ナリ汽車ハ大船迄通ス  
右報告ス

1980

供覽

軍務局

艦政本部

海軍省

人事局

軍需局

經理局

大正十三年一月十五日午後三時四十分。海軍大臣藤田。海軍火藥廠長

海軍大臣

今朝、強震損害輕微  
狀況報告、為午後一時廠員ヲ特派セリ

1981

供覽

大正十三年一月十五日午後五時五十分  
海軍省副官

横須賀鎮守府副官

軍務局別

海軍省副官

淡路ヨリ帰途ニアル飛行機ヨリノ報告

人事局

龍ノ通

西陛下御安泰ニアラセラルヲ御用邸異常

教育局

沿津東京間ノ電話開通セリ

艦政本部

午後五時半横須賀帰着ノ予定

1982

供覽

印

印

教育局

印

建築局

印

軍務局

印

靜岡縣ノ調査ニ依ルハ今朝五時五十分強震アリ  
陸下ニハ御異状ナク御避難等遊ハサレズ  
熱海地方被害ナシ箱根方面多少ノ被害アリ

海軍省副官

藤田

大正十三年一月十五日午後五時

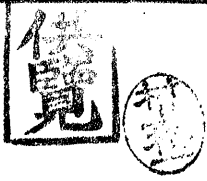
海軍省

異鎮守府參謀長

印

1983





軍務局  
 陸軍省  
 經理局  
 軍需局  
 機關局  
 法務局  
 警務局  
 教育局  
 藥司  
 艦政本部

大正十三年一月十五日午後三時  
 五十二分 横須賀  
 海軍省

横須賀鎮守村副官

海軍省副官



官房第六番電受領

當地被害状況ハ先程ノ長官ヨリ大臣宛電ヲ

承知アリ度

平塚火薬廠ノ状況ハ不明ナルニ今朝同地發

當地ニ來レル警察官ノ談ニ依ルニ同方面一般ニ

被害大ナラス多分火薬廠ニ異状ナカルヘシトノ

コトナリ右調査ノ為本府ヨリ午後三時人員ヲ

平塚ニ急派ス、横須賀東京間及國府津間

汽車開通ス

1984

伊賀



軍務局

教育局

艦政本部

大正十三年一月十五日午後五時

海軍大臣

海軍大臣  
軍務局長

長門艦長



今朝午前五時五十分当地ニ激震アリ  
本艦入渠中ニテ支柱二三本外ニタル  
外各艦異常無シ、船渠モ無事  
取敢ヘス右報告ス

1985

供覽



大正十三年一月十五日午後五時  
海軍省



軍務局

人事局

經理局

軍需局

機關局

教育局

建築局

艦政本部

海軍省別官

浦航空隊別官

今朝ノ地震ニ際シ当隊ニテハ強震ヲ感  
シタルノミニテ何等損害ナシ  
右通知ス

1986

供覽



大正十三年一月十日午後五時一五〇の藤田海軍少将



横須賀鎮守府副官

海軍省副官

海務局

人事局

教育局

濱松ヨリ、帰途ニアリシ飛行機五時五分帰着

大臣ヨリ 昨ヨリ陸軍省へ飛出候ハシテ 船中ニ行初レ 況伴御印部  
、上ヨリ勅命ヲ下シ 西門ノ御印部ヲ振ルルヨリ 西門  
中ニ以テ 御印部ヲ振ルルハ 西門ノ御印部ヲ  
知ラズ 迅速ニ勅命ヲ下シ 御印部ヲ  
在官中ニ御印部ヲ

1987

供覽



大正十三年一月十五日

佐藤 安宅 艦長

安宅 艦長

海軍省副官

軍務局

朝ノ東京強震ニ対シ各方面ヨリ誇大ノ入

電アリ號外等ニテ九月以上ノ如ク宣

傳セラル取リ敢ヘス本艦ノ無線傍受ニ依リ

真相ヲ明確ニシ置キタルモ經濟上影響者

スル所モアルヘキニツキ其筋ヨリ稍々詳シ

キ相當ノ情報ヲ速ニ關係ノ向ニ送ラルルヲ

得策ト認ム

大藏大臣

外務大臣

内務大臣

陸軍大臣

海軍大臣

1988

建築局  
 教育局  
 醫務局  
 法務局  
 機關局  
 軍需局  
 經理局  
 人事局  
 軍務局

供覽



監政本部

海軍省副官



横須賀鎮守府副官

大正十三年一月十五日午後二時

本府ヨリ平塚ニ特派セル人員ノ報告ニ依リハ  
 平塚地方ノ損害状況ハ概シテ輕微詳細ハ  
 火藥廠長ヨリ大臣宛直接報告アリシト  
 コトニ付 通知ス

1989

軍務局

大正十三年一月

十六日午前

三九〇

海軍士務

富士特務艦長

海軍省副官

十五日大泊現況報告

昨夜來北東風強ク九六吹雪、荒天ナリ

殆ト徹夜水防工事及引出準備作業ヲ行ヒ

本日午後四時應急工事、夫部ヲ終リ明日

引出ヲ試シントス

1990

供覽



軍務局

人事局

海軍局

建築局

大正十三年一月十六日午前五時四五

藤田

海軍

海軍少将

海軍大臣

山横須賀鎮守府参謀

午後九時四十五分沼津御用邸ニ伺候ス

西陛下御安泰ニアラセラル

御用邸御被害ナシ

右報告ス

1991



供覽

軍務局

人事局

教育局

建築局

艦政本部

陸軍大臣

内務大臣

東京府

島附近異状無し

海軍大臣

父島無線電信所長

大正十三年一月十六日午前九時二十分  
横須賀海軍工廠

藤田

1992

軍務局

大臣ヨリ出陣ノ旨ヲ封拜ヲ首也等ノレ由通シ



大正十三年一月十五日

内閣書記官長

大臣殿

通牒

震災ノ状況報告其他打合セノ為本日  
午後四時ヨリ首相官邸ニテ臨時閣議  
開催相成候向御參集相成度



等由



1993

水  
路  
部  
地  
質  
部  
地  
震  
観  
測  
所

供  
覧

今朝地震 = 茨城 - 中央気  
象台 発表

時刻 5<sup>h</sup>50<sup>m</sup>25<sup>s</sup>  
初期微動 7.6  
震源地方向 SW  
距離 56 k.M (14里)  
相模国丹波山附近

継続時間 12<sup>m</sup>  
感度 { 横波 6 { 6階級 }  
          { 縦波 5 { =分 }  
          { 小 3

先般大震、備震ノ認ナリ  
多分今朝振、微震ニナリ  
其他電流不逸ノ不明  
水陸部 葛一澤山本大尉

皇

藤田

海  
軍

皇

明治三十五年三月

1994

手紙

軍令部

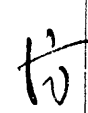


艦政本部

建築局



軍務局



人事局



経理局



軍需局



機關局



法務局



警務局

教育局

今明日、自衝車ヲ以テスル送迎ハ或ハ不可能ナル  
場合有之ハキニヨリ豫メ御諒承被下度

右通知ス

海軍省副官  
藤田



1995

軍令部	艦政本部	建築局	海軍省	醫務局	法務局	機關局	軍需局	經理局	人事局	軍務局
齊	濟	濟				濟	ス ス	齊	齊	切

海軍省副官

海軍

1996

海軍

横須賀、船員、急用、方り

自御、乗、出、本、御、送

二、中、江、舟、二、乗、ラ、レ、候

1997

Handwritten mark or signature at the top right.

儀覽 (Seal)

主 獵 課 長

式 部 官  
兼 宮 内 事 務 官  
加 藤 内 藏 助

一三一—一—一五

海 軍

加茂郡 官 午 夕 七 時 三 分 来 者 次 ノ 要 領 申 入 ヲ  
召 博 中 路 英 中 ノ 西 陸 下 ノ 少 模 様 ハ 宅 内 有 車 由  
電 話 不 用 通 信 處 係 係 國 府 村 以 西 不 通 ノ 眼 界 高  
不 明 幸 海 軍 無 係 其 他 ノ 子 般 以 上 ノ 少 模 様

1998





軍務

大正十三年 一月 十五日 午後七時四十分 樫電局發

日 午前八時十八分 海軍局著

發信者 第一艦隊副官

受信者 右副官

電報譯 (暗平)

高輪私宅竹下長官及麻布三河台町一三

榊山參謀長ニ伝ハラレ度

今朝強震アリタルニ入渠中ノ艦船皆無

事

軍込傳信

海軍

機造牛葉十一行部派

2000

(2)

横須賀鎮守府参謀長宛  
 電報  
 官副官  
 藤田  
 共  
 午後七時十五分  
 電報

今朝、激震ニヨリ東京市内、電燈消工、外水道  
 自斯ニ異状ナク火災ヲ認メズ、損害極メテ微小ナリ  
 貴地ノ状況如何

十五分アセヨ  
 又三

海軍

2001



✓

△

省鎮

省要港部 參謀長宛

省艦隊司令部

電報

今朝東京に震動アリタルに損害殆ど無事なり  
状況平穩ナリ

十の百の七の〇

二二

省副官

海軍

藤田

午前十五

電濟

豊田

砂

（終）

2002

本

軍務

一月十五日

鑑

吳鎮

佐鎮

參謀長宛

官房

四

電報

電報

首副官

藤田

田

林

岩村

海軍

今朝、激震ニシテ國府津以西ノ通信杜絶。且、沼津及関西方面異状、有無不明。取調至急。報告アリ。度。右依命。

一月十五日

2003

△

軍務局

官房第五

横鎮長官

相模沿岸及沼津附近ノ状況ヲ飛行機ヲ以テ視察セシメテ夜

電報

次官

午前十時二十

藤田

任

海軍

2004

軍務局

附

横鉄新友宛

電報

新友

午一  
十一  
二  
横鉄  
新

静岡縣知事ヨリ宮内大臣宛テノ電報アリテ

為テ電ハ清水無原、鉦子無原ヨリ船務至由  
ニテ到達セシメテノ事ノ旨念

司言

海軍

2005

海軍無電中継

大正十三年一月十五日

（水無線）

宛發 靜岡縣知事 官内大臣

今朝五時五十分近來稀薄ナル強震アリ其  
程度ハ電燈<sup>機</sup>甚<sup>ク</sup>タルク動搖セルモ時計ノ振子  
止マル程度ニ至ラス机上ノ物品ニ墜落ノ程度ニ  
至ラス

西陛下ニ何等御異状アラセラレス屋外ニ

御避難ヲ遊ハサレス

右電信電線等不通ニ付靜岡縣庁ヲ通シ

何等カノ方法ヲ報告スル様依頼セリ

尚西陛下ヨリ攝政殿下ノ御機嫌ヲ伺ヒ

侍従長 皇后宮大夫 高等官一同ヨリ 謹  
換政殿下ノ御機嫌ヲ伺ヒ奉ル  
十五日午前六時三十六分 沼津御用邸ニ荒  
宮内書記官ヨリ 牧野宮内大臣閣下

2007



(3)

三

本

一月十五日  
横鉄参謀長宛

電報

次官

引津ニ御遊宴中ノ西陛下ノ御模様  
角真鶴電信外ヲ仲介スルカ着リ駆込船  
特似等ノ手紙ニ依リ至急電報アリタル  
皇居、攝政殿下御出立アラセラル

十五のあ七一ニ

藤田

海

軍

軍

岩村

2008

供覽

海軍省副官

軍務局

備忘第三三號

大正十三年一月十五日

井上横須賀航空隊司令

寺岡横須賀鎮守府參謀長

視察飛行件

本日午前横濱式水上偵察機及「工」五飛行機  
ヲ以テ視察セル各地狀況左記、通  
右通報ス

記

一 横濱方面 (高度一〇〇米)

海軍

副官

官房受

2009

海軍航空隊  
横須賀鎮守府符箋用紙

飛  
行  
機

官  
房  
受  
取  
印

2009

海軍航空隊  
横須賀鎮守府符箋用紙

大正十三年一月十七日  
横須賀海軍航空隊  
本件署名之横須賀モト引横須賀隊  
(終)

2010

一、市内電車停電セルモノ、如シ 二、横浜、東神奈川、中間ニテ西方面ヨリノ 列車通行セルヲ見ル 三、横浜駅東側ニ於テ家屋一軒倒レ居レリ 四、戸塚附近ニ於テ列車顛覆シアルモノ如シ 五、其ノ他異状ヲ認メス	二、東京方面 (高度一〇〇〇米) 一、東京駅ヨリ發車セルヲ認ム 二、市内電車ハ運轉シ居レリ 三、大島、伊豆、十四京方面 (高度三〇〇〇米) 一、三保山ハ火山ノ形ヲ以テ西邊ニ居リ其ノ他異状
--	---

2011

ナシ

二 伊豆、真鶴方面震災ノ復興中ニシテ

鐵道其他ノ狀況以前ト同様ナリ

三 小田原、平塚方面異状ナシ

四 國府津より上り列車運轉シタルヲ認め

五 鎌倉、逗子、三崎方面異状ヲ認めス

四

沼津

海軍大臣及横須賀鎮守府司令長官ノ命

ニ依リ石臼艇ヲ以テ別ニ飛行隊長ヲ

差遣シ御用邸ニ到リ文機奉伺ヲ

ナサシム午後零時五十分并一合五時

海

軍

2012

平介殿着)

五

東京

御守符司令

梅嶺殿上ノ命ニ依リ下ノ報ニテカ藩

中尉ヲ芝浦ヨリ上陸セシメ山階宮殿下

御機嫌奉伺ヲサシメ次テ海軍者ニ

状及報告及之ヲ通任務ヲサシメ

終

2013

寫

藤田

横空第三三號

大正十三年一月十五日

富官

井上横須賀海軍航空隊司令

寺岡横須賀鎮守府參謀長殿

第一

視察飛行件

本日午前横廠式水上偵察機及「エ」五飛行機  
ヲ以テ視察セル各地ノ状況ヲ記ノ通

右通報ス

記

横濱方面

(高度一〇〇〇米)

海

軍

受  
封  
十音

2014

一、市内電車停電セルモノ、如シ

二、横浜、東神奈川、中間ニテ、西方面ヨリノ

列車通行セルヲ見ル

三、横浜駅東側ニ於テ家屋一軒倒シ居レリ

四、戸塚附近ニ於テ列車顛覆シアルモノ、如シ

五、其他異状ヲ認メス

東京方面 (高度一〇〇米)

一、東京駅ヲ發車セルヲ認ム

二、市内電車ハ屋(轉シ居レリ)

大島、伊豆、小田原方面 (高度二〇〇呎)

一、三原山ハ火山ノ如クシテ復シ居リ、其他

2015



異状ナシ

- 一 伊豆、真鶴方面震災ノ復興中ニシテ
- 二 銚道 其他ノ状況以前ト同様ナリ
- 三 小田原、平塚方面異状ナシ
- 四 国府津ヨリ上り列車運轉シテ認ム
- 五 鎌倉、逗子、三崎方面異状ヲ認ム

(終)

2016